

令和 6 年度
北九州市立看護専門学校
一般入学試験

国 語 問 題 用 紙
(50 分)

<注意事項>

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が 17 ページまであります。
- 3 落丁・乱丁のある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ① 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄の数字をマークしてください。
 - ② 氏名欄に氏名・フリガナを記入してください。
- 5 問題冊子は回収します。

受 験 番 号

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合で本文の段落に [1] ～ [14] の番号を付してある。

また、設問の都合上、表記を改めたところがある。

[1] たやすく手に入れられる商品や情報が増えていけば、「賢く」買うために充分に吟味することはむしろ難しくなる。選択に必要となるコストが増大するからだが、そのためにいかに厳選して買うかだけではなく、買ったモノをいかに効率よく「整理」し「廃棄」していくかが課題となる。似たようなモノ、また必要なくなったモノを持ち続けていても、結局は無駄になる。だとすれば購買活動そのものが間違ったものではなかったことを証明するために、モノを効率よく「整理」し「廃棄」していくことが必要になるのである。

[2] それを実現するために、デジタル技術が活用されている。一例として近年、多様なモノを売るだけではなく、買ったあとのモノを効率的に「処分」することを助けてくれるオークションサイトが人気を博している。たとえば二〇一三年にスタートしたメルカリは、二〇一四年までに累計五〇〇万、二〇一五年には一七〇〇万、二〇一七年には五五〇〇万ダウンロードを記録するなど、二〇一〇年代なかば以降に一気に普及した。それまでのオークションサイトを代表していたヤフオク以上に、メルカリは簡単にまた安心して商品を購入・売却できるサービスを用意し、そのおかげで買い物に苦痛を覚えることの多い女性を中心として普及していったのである。

[3] それを代表にオークションサイトは、効率的な「廃棄」を可能とすることで、買い物の省力化にたしかに一定程度役立ったはずである。とはいえオークションサイトは、「廃棄」の労を完全に省いてくれるわけではない。^a 相応の手間がかかるという意味で、買った商品のすべてを出品することは A ではない。何を使い続け、何を売るのかという選択は今のところ人力で下すしかないからである。

[4] だからこそデジタル技術（テクノロジ）だけではなく、モノの処理をより円滑に進めるアナログな技法（テクネー）にも注目が寄せられている。なかでも大きなブームになったのが、二〇一〇年代における近藤麻理恵（こんまり）の「片づけの魔法」である。こんまりは、モノがあり余るこの社会では、片づけをおこなうことが円滑に日常生活を営む上で必須であるとして、そのための技法を教え、世界的な注目を集めたのである。

[5] もちろん適切な「片づけ」を促したのは、こんまりが最初ではなかった。辰巳渚^{たつみなぎ}『捨てる！』技術』（宝島社、二〇〇〇年）や、「やましたひでこの『新・片づけ術 断捨離』（マガジンハウス、二〇〇九年）などの片づけ^b 指南の書がそれに先行していたが、それらに共通していたのはモノを大量に生み出す消費社会を受け入れ、擁護する姿勢をみせていたことである。たとえば辰巳はその著で、「モノの消耗のスピードをはるかに超えてものが増殖し、私たちの暮らし」が「モノであふれるようになっ」たことを問題として指摘しつつも、「買うこと＝モノを増やすことをやめてしまうのは、あまりにさみし」く、買い物を減らしても「楽しく暮らせるとは思えない」からこそ、「捨てる技術」

が必要になると述べている。

[6] こうした姿勢は、なお（注¹）バブルの残り香の^⑦タダヨウ一九九二年に流行した中野孝次の『清貧の思想』（草思社、一九九二年）が表明していた態度と比べると正反対のものといえる。中野はそこで、「物は豊かになった。EC圏のどの国に劣らぬくらい市場に物はあふれてい」と認めながらも、「物の生産がいくらゆたかになっても」「生活の幸福とは必ずしも結びつかない」として、大量生産・大量消費を否定し、モノを持たずに幸せに暮らした先人たちの心意気を称賛していたのである。

[7] 膨らみゆく消費社会に敵対的な姿勢をみせることで『清貧の思想』は注目を集めたわけだが、二〇〇〇年代以降の片づけの指南書では以上のような態度は薄れ、あくまでモノを大量に受け入れながらも、それを処理していくためのAな技法を編み出すことがより大きな課題となっていく。たとえばやましたひでこは、「モノが勝手にやってくる社会」で暮らしている以上、モノが家のなかにあふれていることは私たちの「責任」ではないとなくさめる。しかしだからこそ快適に生きようとするならばモノを努力して捨てる必要がでてくるというのであり、そのためにやましたはヨガの「断行」「捨行」「離行」から着想を得て、「モノの片づけをおして自分を知り、心の混沌（こんとん）を整理して人生を快適にする技術」として「断捨離」を説くのである。

[8] こうした先行する技法を受け継ぎつつ、近藤麻理恵が「片づけの魔法」でさらに付け加えたのは、何を捨てるかではなく、むしろ何を残すのかについての関心である。可能なかぎりモノを処分し、大事なものを残すという結果だけをみれば、たしかに「断捨離」とこんまりの「片づけの魔法」はよく似ている。だがこんまり自身の説明によれば、「断捨離」ではモノに対するこだわりをいかに捨てていくかが重視されるのに対し、「片づけの魔法」ではむしろモノに対する執着こそが大切になる。こだわりのあつて初めてどのモノを残すか決められるというのであり、そうした執着を自覚するためにこんまりは片づけに際して、「一つひとつ手にとつて、触れてみることを通じて、「持っていて心がかきめくか」どうかを判断するという、トレードマークにもなった^⑧ギレイも奨励しているのである。

[9] この意味で²こんまりメソッドの中心にあるのは、モノに対するこだわり、それもときには合理性を超え、神秘的な傾向さえみせるこだわりといえる。ここでのモノの価値は、役に立つか（＝使用価値または有用性）や、貨幣的な価値があるか（＝交換価値）によっては判断されない。そもそも考えてみれば、市場に安価な商品が充実している（注²）デフレ下の状況では、機能的な役立ちに立つ商品であればあるほど、その代わりとなる商品を手に入れることも容易なはずである。

[10] その代わりに「片づけの魔法」では市場、つまりはどこかの誰かの判断を超えた、あくまで自分にとつての価値が大切とされる。モノへのこだわりはここでは罪悪視されたり、否定されたりしない。市場価値は高くとも執着を引き起こさないモノが家に残されていることのほうがむしろ問題とされるのであり、そうしたモノを捨て、ときめきを与えてくれるモノだけで家を満たすことがこんまりの目標となるのである。

[11] この意味で機能性や交換価値を超えた、モノに対するいわばフェティッシュな愛着を擁護することが、こんまりメソッドの④カクシンにあるといえる。だからこそこんまりメソッドはたんに片づけの指南には終わらず、片づけを通してモノの魅力を「再発見」し、その過程で自分がどんな人間であるか知るための技法にも通じていた。「片づけ」は、たんに無駄なモノを捨てる技法にも、モノを便利な場所にシユウ⑤ノウする生活の技術にもとどまらない。片づけは他者の判断に頼らず、「モノを通して自分と対話」し、自分を知るための自己⑥ケイハツ的機會としてある。この際、捨てられる無数のモノにさえ特別の意味が割り当てられる。それらのモノは自分が何でないかを教えてくれたという意味で逆説的にも役立ったのであり、だから捨てる場合にも「私に合わないタイプの服を教えてくれて、ありがとう」といった感謝の言葉をかけなければならないとされるのである。

[12] 以上、こんまりの片づけメソッドは、消費社会が促す大量生産・大量消費をあくまで前提として、魅力的なモノを選び、手に入れるための技法としてあり、その意味で「清貧の思想」だけではなく、「捨てる！」技術や「断捨離」とも一定のちがいがあつたといえる。たしかに安価にモノがあふれる現代社会では、本当に大切と思える商品を「賢く」(『コスバよく』)手に入れることはむずかしい。しかしたとえ購入時にそれができなくても気に病む必要はない。まずはモノを気軽に買って、次にそれを捨てるようしてみれば、それが「ときめく」もの(『賢い』買物)だったかどうかは

B に確かめられるとこんまりは説くのである。

[13] こうして消費と大量消費の市場を肯定しつつ、モノへの愛着を主張したという点で、こんまりの「片づけの魔法」は、それに少し遅れて現れた「ミニマリスト的ライフスタイル」とむしろ似た部分を持っていた。ミニマリストの火付け役となつた著書『ぼくたちに、もうモノは必要ない。——断捨離からミニマリストへ』(ワニブックス、二〇一五年)のなかで佐々木典士(ふみお)は、ミニマリストを「本当に自分に必要なモノがわかつている人」と定義している。つまりミニマリストとは消費に敵対し、モノに憎悪を燃やす者ではなく、できるだけ厳選し、気に入つたモノだけを周囲に留めようとする者なのであり、だからこそその生活は、現代の消費社会の機構によつて支えられている。実際、佐々木は、ミニマリストが生まれてきた条件のひとつとして、「モノを持たないで済む、モノとサービスの発展」を挙げている。ミニマリストがモノを所持しなくて済むのは、市場にモノがあふれ、それを好きなきに買えるからである。必要があれば市場でその都度買えばよいからこそ、ミニマリストは手元に残すモノを最小限に絞ることができるのである。

[14] 現代の消費社会を肯定し、そこで生まれるモノに対する愛着を隠そうとしないという点で、ミニマリストとこんまりの志向はよく似ている。ちがいがあるとすれば、こんまりの片づけに心惹かれるような人はモノを買う前に自分が好きなものが何かよくわかっていないのに対し、ミニマリストはあらかじめ自分に必要なモノを知っている(と信じている)ことである。それを支えるのは、ひとつには金の力である。豊かな者は必要になればいつでも市場で買えばよく、それゆえ気になったモノを片っ端から買わなければならないとは考えない。対して相対

的に貧しい者は、いつ買えなくなるかわからない以上、気に入った商品があればその都度買っておいたほうがよいのである。

ただかねひてゆき
(貞包英之『消費社会を問いなおす』より)

(注1) バブル 1980年代後半から1990年代初頭にかけてみられた空前の好景気。

(注2) デフレ 物価が持続的に下落していく経済現象。

問 1 二重傍線部㊦㊧の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は ㊦ ①、㊧ ②、㊨ ③、㊩ ④、㊪ ⑤。

㊦ タダヨウ

- ① ヒヨウコウ 480メートル
- ② 作品をヒヨウする
- ③ 疑問がヒヨウカイする
- ④ 孤島にヒヨウチャクした
- ⑤ ジヒヨウを提出する

㊧ ギレイ

- ① ギゼン者よばわりされる
- ② ギコウを凝らして製作する
- ③ 交通禍のギセイになる
- ④ テキギ休みをとる
- ⑤ 撤退をヨギなくされる

㊨ カクシン

- ① 文明からカクゼツした奥地
- ② 境界をメイカクにする
- ③ 陰でこそカクサクする
- ④ カクハイゼツ運動に携わる
- ⑤ フウカクのある字を書く

㊦ シュウノウ

- ① ノウムが立ち込める
② ノウリョウ花火大会を催す
③ 彼はノウベンカだ
④ クノウの色がこい
⑤ 一瞬ノウリをかすめた

㊧ ケイハツ

- ① 国旗をケイヨウする
② ケイヤクを結ぶ
③ 万葉集にケイトウする
④ ソンケイの念を抱く
⑤ 神のケイジを受ける

問2 二重傍線部 a、b の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は a 6、b 7。

a ① はなはだしい時間や労力 ② ふさわしい時間や労力 ③ ひととおりの時間と労力

④ ただならぬ時間と労力 ⑤ さまざまな時間や労力

b ① 正しく理解するための本 ② 勧め、励ます本 ③ 教え、導く本

④ 刺激し、そのかす本 ⑤ 適切に行うための本

問3 空欄

A

8

、B

9

。

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号はA

8

、B

9

。

A

① 体系的

② 倫理的

③ 画期的

④ 抽象的

⑤ 現実的

B

① 所与的

② 遠近法的

③ 事後的

④ 修辭的

⑤ 自己目的

問4

本文を三つの段落に分けるとすると、

2

～

14

のうちどこで区切るのが適当か。二つ目と三つ目の段落の先頭の番号の組み合わせと

して最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は

10

。

⑤	④	③	②	①
8	8	6	6	6
13	12	13	12	8

問5 傍線部1「やましたひでこの『新・片づけ術 断捨離』とあるが、この本の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、

一つ選びなさい。解答番号は11。

- ① 大量生産、大量消費の社会に敵対的な姿勢を見せて、モノがあふれかえるのは問題であると指摘している。
- ② モノを大量に生み出す社会を受け入れながらも、モノの片づけを通して快適に生活することを説いている。
- ③ モノを持たずに幸せに暮らした先人を否定し、モノを大量に受け入れ、豊かに生きることを提案している。
- ④ 家にはモノがあふれていても、自分を知ることや心の中を整理し、悟りすまして暮らすことを勧めている。
- ⑤ あり余っているモノの処理をおこなって日常を過ごすために、ヨガの技法を活用することを奨励している。

問6 傍線部2「こんまりメソッド」とあるが、これはどのような方法なのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、

一つ選びなさい。解答番号は12。

- ① 一つひとつ手にとって触ってみることで、モノの有用性を再確認して、自分のときめきの正しさを認識する方法。
- ② モノがあり余る社会の中で、円滑な日常生活を営むために、片づけをしなければならないと説いた未曾有の方法。
- ③ 自分にとってときめくモノであるかを買う時にじっくり吟味して、できるだけ捨てないという賢い買い物方法。
- ④ 「捨てる」「技術や「断捨離」を否定して、モノに対するこだわりを大切にし、何を残していくかに注目する方法。
- ⑤ 世間の価値観とは関係なく、自らにとって魅力的なモノを再発見することで、自らを知ることにもつながる方法。

問7 傍線部3「ミニマリストのライフスタイル」とあるが、それはどのような生き方なのか。その説明として最も適当なものを、次の①～

⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は13。

- ① 消費と大量消費の市場を肯定しつつも、モノへの愛着は持つておらず、必要なモノだけで生活する生き方。
- ② 最小限度のモノだけを手元に残し、極力モノを持たずに暮らす先人を理想とする中野孝次に通じる生き方。
- ③ 必要なモノは何かを知ったうえで、それが必要な時には市場で買えばよいとする財力を前提とした生き方。
- ④ 気に入った商品があれば、すぐに買いたくなるという欲望がないため、経済的にこまることがない生き方。
- ⑤ 心がときめくかどうかの基準は明瞭ではないが、ときめくモノだけを周囲に留めておきたいとする生き方。

問8 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は14。

- ① 辰巳の「捨てる！」技術や、やましたの「断捨離」よりも、こんまりの「片づけの魔法」の方が効率的な片づけ方法である。
- ② こんまりは機能性ではなく、自らの価値観を大切にすることに對して、ミニマリストは機能性に重点を置いてモノを選別する。
- ③ 物が豊かにあっても精神が豊かにならなければいけないとする『清貧の思想』は、観念的であると現代では批判されている。
- ④ モノがあふれる現代社会では、賢く商品や情報を手に入れることが難しく、効率よく整理し廃棄することが求められている。
- ⑤ モノに対するフェティッシュな愛着を擁護するこんまりは、すべてのモノに価値を認め、モノを大切に使い続けようとする。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

「伝統的な友情観——すなわち、互いに自律した個人の間で交わされる、古代ギリシャに由来する男性的な友情——において、友達同士が互いを「わかり合う」ことができるのは、「私」が自分と似た人間と友達になるからだ。そのように自分と似た人間と友達になるために、「私」は自分が何者であるかを理解しなければならぬ。「私」が自分のことを理解していなければ、友達が自分に似ていることもまたわからないからである。友達と「わかり合う」ためには自分のことが「わかる」のでなければならぬ。たとえばアリストテレスは、自分自身と友達になることから、他者と友達になることが可能になる、と考えていたが、それは自分のことが「わかる」からこそ他者のことも「わかる」というロジックである。

それでは、そもそも「わかる」ということ——理解すること、あるいは認識すること——とは、いったい何を意味しているのだろうか。それに対して、ニーチェは次のように答える。すなわち人間が何かを認識するということは、未知のものを既知のものに置き換えることである。どういうことだろうか。

たとえば、「私」がドイツに旅行して、そこでシュニツェルという未知の料理と遭遇したとする。「私」にとってそれは人生ではじめて出会うものであり、食べてみるまでどんな味かわからない。しかし、それを一口食べると、その食感や食材の調理法から、「このシュニツェルというのは要するにトンカツのようなものだ」と「私」は判断する。このとき、「私」はシュニツェルという未知の対象を、トンカツという既知の対象に置き換えたことになる。それによって、「私」はシュニツェルという料理に対する認識を獲得するのである（余談になるが、シュニツェルは黒ビールとよく合う料理なので、ドイツに旅行された際は是非ご賞味されたい）。

認識することとは、未知を既知に置き換えることだ。そしてそれが意味しているのは、未知のものがもっている新しさを、既知のものによって否定する、ということである。認識することによって、対象は自分がすでに知っているもの、見たことがあるもの、よくある他のものへと変換されてしまう。トンカツとして認識されてしまったら、シュニツェルの味わいの新鮮さは薄らいでしまうに違いない。そのようにして、認識は対象を「陳腐なものにしてしまうのである」。

このような意味での認識の働きが、シュニツェルではなく、²自分に向けられるとき、何が起きるのだろうか。

「私」が自分を認識するということは、自分のなかにある未知なものを否定し、それを既知なものへと置き換えることを意味する。素直に考えればそうなる。そしてニーチェは、そうした自己認識は必ず失敗する、と考える。なぜなら人間は、そもそも自分が何を考え、何を望んでいるのかを、自分でほとんど意識することができないからだ。ニーチェによれば、人間は、自分でも気づかないままに、様々なことを考え

続けているのであり、そこには自分でも意識することのできない未知の部分が潜んでいる。そうであるにもかかわらず、自分のことをわかった気になることは、自分のことを誤解し、それどころか自分を陳腐なものへと貶めることを意味するのだ。ニーチェは次のように説明する。

「……われわれ各人は、自己自身を個人としてできる限り理解し、「自己自身を知る」ことに努める意欲をもつてはいても、結局のところは、自分の中の非個性的なものの、「平均的なもの」ばかりを意識することになる。」

（『喜ばしき知恵』）

このような A は、受験や就職活動において、自己アピールをしたり、自己分析をしたりしたことがある人なら、誰でも経験することだろう。他人とは異なる自分のオリジナリティを説明しようとすればするほど、出てくる言葉はどこかで聞いたことがあるようなもの、似たり寄ったりなものになってしまう。ニーチェはすべての人間がかけがえのない存在であり、根本的なオリジナリティを持っていると考える。い、それを自分で認識できたと思ひ込んだ瞬間に、そうした個性は既知の「平均的なもの」に置き換えられ、失われてしまうのである。

う そうした自分の個性が、ずっと同じであり続けるとは限らないし、それどころか一つであるとも限らない。人間は、状況の変化によって性格が変わることもあるし、あるいは同時に矛盾する二つの考え方をもち、それらが自分のなかでせめぎ合うこともある。このような特性もまた、自分を認識しようとした途端に、覆い隠されてしまうのである。

【I】

人間には、自分でも気づいていない個性があり、その個性は変わりうるものであり、そして多様でもありうる。このような考え方は、人間の人格のうちに、単一で、不変で、誰にでも理解できるような個性があることを否定するものである。人間には自分のことなど認識できない。「私」には自分を誤解することしかできない。そうである以上、「私」が自分と似た他者と友達になろうとしても、「私」はその他者のことも同じように誤解してしまう。こうした発想は、友達を「もう一人の私」として説明した。アリストテレスの友情論を、その根本から批判するものである。

【II】

このことは、決して、本来なら「私」は他者を理解できるはずなのに、誤解してしまう、ということの意味するわけではない。そもそも私たちには原理的に他者が理解できないのだ。たとえば、「私」がどんなに友達のことをわかった気になっても、友達には、「私」からは決して

て見ることでできない、決して知る由もない部分が潜んでいる。ニーチェは次のように述べる。

友人について。——まあ一度君自身を相手によく考えてみるがいい、もつとも親しい知人の間でさえ、どんなに感覚が違うか、どんなに意見がわかれていたかを、同じ意見でさえ君の友人の頭の中では君の頭の中とは、どんなにまるで違った位置や強さをもっているかを、誤解や敵意ある離反へのきっかけが、どんなに多様に現われてくるかを。

『人間的、あまりに人間的』

ずいぶん B のように聞こえるかも知れない。夢も希望もない、人間らしいやさしさを欠いた考え方のように思われるかも知れない。

【Ⅲ】

しかし、ニーチェの立場に従うなら、本当は友達を誤解しているのに、友達をわかった気になることの方が、はるかに友達に対して失礼な態度ということになる。なぜなら、そのように友達をわかった気になることによって、「私」は友達がもつ未知の部分を否定し、既知のものに置き換えてしまうからである。それによって、友達はどこにでもいる平凡な人、他の人と交換可能な陳腐なものへと貶められる。それはシュニツェルをトンカツと呼ぶことと変わらない。友達の個性を尊重しているようで、実は否定しているのである。

【Ⅳ】

「私」は友達を誤解せざるをえないし、友達も「私」を誤解せざるをえない。友達同士が「わかり合う」などということは、幻想に過ぎない。そうであるにもかかわらず、私たちがわかり合える関係を友情の理想として捉えるのなら、その幻想は、それによって互いの個性を傷つけあい、相手に対する不信感を抱かせるような、息苦しい関係をもたらす。ニーチェの友情論からこのように考えることができるだろう。

【Ⅴ】

では、友達とはわかり合えないという現実に対して、私たちはどのような態度を取ればよいのだろうか。ニーチェは一つの実践的なアドバイスを示している。それは、友達を「軽く視る」ということである。

「軽く視る」ということは、友達を蔑ろにすることではない。そうではなく、友達との相互理解に負荷をかけないようにする、そこに寄りかからないようにする、ということだ。たしかに友達は「私」が理解しているのとは違う人間かも知れない、しかし、そうであったとしても何も問題ではない、そんなことはどうでもよい、という心構えで、友達と関わることだ。そのような心構えがあれば、友達とわかり合えない

いのだとしても、それは友情にとって支障にならない。ニーチェの人間観に従う限り、友情とはそうした軽やかな関係として理解されるべきなのである。

(注) ニーチェ —— ドイツの哲学者、詩人。

(戸谷^{とやひろし}洋志『友情を哲学する 七人の哲学者たちの友情観』より)

問1 空欄

あ

く

う

を補うのに、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号はあ 15、い 16、う 17。

- ① しかし ② なぜなら ③ むしろ ④ しかも ⑤ つまり

問2

二重傍線部 a、b と同じ意味で用いられているものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は a 18、b 19。

a

① 陳情

② 陳述

③ 陳謝

④ 陳列

⑤ 新陳

b

① 端緒

② 異端

③ 万端

④ 端麗

⑤ 端末

問3

空欄

A

、

B

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は A 20、B 21。

A

① 命題

② 逆説

③ 詭弁

④ 仮説

⑤ 私見

B

① 阿った意見

② 唾棄すべき意見

③ 傲岸不遜な意見

④ 辛辣な意見

⑤ 浮世離れた意見

問4 次の段落を挿入する場所として最も適当な位置を、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 22。

そしてこのことは、「私」が友達から理解される場面にも当てはまる。「私」は友達から常に誤解されている。「あなたってこういう人だよ」と友達から認識されることがあっても、「私」のなかには、その認識から零れ落ちるものが溢れかえっているからだ。

- ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】 ⑤ 【Ⅴ】

問5 傍線部1「伝統的な友情観」とあるが、これはどのような友情観なのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 23。

- ① 自分と内面だけではなく、すがたや顔かたち^{かたち}にいたるまで、そっくりな人間が周囲にいと、友達になることができるという友情観。
② 自分はこのような人間であると認識している人が、その自己認識と同じような人間がいと、友達になることができるという友情観。
③ 自分の中にいる他者のことが好きになれる人間は、他者の中にいる自己も好きになれるので、友達になることができるという友情観。
④ 自分にとって未知なるものを持つている人間に出会^あうと、相手に対する興味が生まれるため、友達になることができるという友情観。
⑤ 自分の中にあるのに、いまだ知らないものを引き出してくれる人間は貴重な存在であるため、友達になることができるという友情観。

問6 傍線部2「自分に向けられるとき、何が起きるのだろうか」とあるが、自分はどのようなことになるかと筆者は考えているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 24。

- ① 自分の中の未知なるものを自分で捉えたような気になり、自分が個性的な人間であると誤解してしまうことになる。
- ② 人間は状況の変化に伴って性格を変化させるべきであるのに、いまある自己を維持しようとしてしまうことになる。
- ③ 所詮人間は他者とそんなに大差がないのに、自分はかけがえのない唯一無二の存在だと思ってしまうことになる。
- ④ 自分とはこんな人間であると自分で認識できたと思い込んだ瞬間に、オリジナリティを喪失してしまうことになる。
- ⑤ 自分で自分を認識などできないのに、認識できたと錯覚するだけでなく、自己を過大に評価してしまうことになる。

問7 傍線部3「アリストテレスの友情論を、その根本から批判する」とあるが、なぜアリストテレスの友情論は批判されるのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 25。

- ① 誰にでも理解できるような、常に変わることのない友達の個性を見逃してしまうことになるから。
- ② 似た者同士は最初のうちは仲がいいが、しだいに似たもの同士であるがゆえに仲が悪くなるから。
- ③ 自分のことも、友達になろうとしている他者のことも、どちらも理解することなどできないから。
- ④ どこにでもいる、オリジナリティのない平々凡々とした人しか友達になることができないから。
- ⑤ 分析の結果わかった本当の自分のことを、友達は思い込みゆえに理解しようとしてくれないから。

問 8

本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 26。

- ① アリストテレスの友情論は古代ギリシャに由来する男性的な友情論であるため、女性については当てはまるものではない。
- ② シュニツツエルを食べてみてわかったように、友達も交流を持つことにより、相手の知らない面が見えてくるようになる。
- ③ ニーチェは夢も希望もない、人間らしさを欠いた極端な考えの持ち主であるため、友達を軽く視ることをすすめている。
- ④ 自分と似た人間と友達になり、わかり合うためには、まず自分のことを誤解することなく、的確に理解する必要がある。
- ⑤ 友達とわかり合えないとしても友情にとつて問題はない、つまり友情とは軽やかな関係として理解されるべきものである。